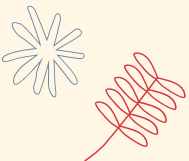




病院は
いつもとはちょっと違う慣れない場所です。
不安や緊張や怖い気持ちは
誰にだってあるもの。
子ども療養支援士は
遊びを通して
ひとりひとりの「がんばる力」を
後押しします。



ご相談・ご質問がございましたら、
子ども療養支援士か小児科スタッフに
お気軽にお声がけください。



国立がん研究センター中央病院
小児腫瘍科
子ども療養支援士
北條 由華
加藤 香恵

特定非営利活動法人 子ども療養支援協会
Japanese Association for Child Care Support



「子ども療養支援」 のご案内



「子ども療養支援士」
という職種が
医療チームの一員として
活動しています。



子ども療養支援士とは

子どもと家族が安心して過ごし、できる限り不安やストレスが少なく医療体験を乗り越えていけるよう、子どもの目線を大切にしながら、療養生活をサポートする専門職です。

遊びの支援

遊びは、入院中の表面化しないストレスを発散し、心を癒すための大切な手段と考えています。成長発達にも欠かせないものであり、乳幼児から思春期までそれぞれの状況や個性・発達に応じた遊びを行っています。

また、療養生活の中で子どもたちは恐怖・怒り・寂しさ・不安など様々な感情を抱きながらも、大人のように表現することができません。遊びは、言葉にならない思いやストレスを表現したり発散したりできる機会としても有効です。



心の準備・検査処置中のサポート

子どもたちは病院という慣れない環境の中で初めての人や物事に多く出会います。「どんなところに行くのか」「どんな人に出会うのか」「どんなことをするのか」など、これから経験することを前もって知ることは、子どもの不安や緊張を和らげ、困難に対処する力を高めます。検査や処置をどのように乗り越えるかを子どもと相談しながら、他職種と連携してサポートすることで、医療環境におけるストレスの軽減やトラウマ予防に繋がるよう支援しています。



診断や病名告知等に伴う 心理社会的支援

小児がんは治療期間も長く、入退院の繰り返しや治療による副作用、外見や生活の変化、家族や友達からの分離など様々な困難を経験します。その中で子どもたちが抱える「どうしてこのようなことをするのか」「どうなるかわからないから怖い」などの子どもの気持ちに寄り添い、ご両親や他職種とも相談・連携しながらその子の発達段階に合わせた理解を促し、子どもたちがその子なりに病気に向き合い、主体的に治療を乗り越えていけるようサポートします。

きょうだい・家族支援

子どもの病気や入院は、家族ひとりひとりにとって大きな出来事であり、家族の生活スタイルも変化します。特にきょうだいは、不安や恐怖、寂しさ、孤立感、嫉妬やプレッシャーなど複雑な感情を抱えていることも多く、心のサポートを必要とする場合があります。必要に応じて、そのようなきょうだいの気持ちを受けとめたり、きょうだいへも病気や治療、療養環境についてお話ししたりなどの支援も大切にしています。

グリーフサポート

様々な喪失体験において、多職種チームで本人ときょうだいを含めた家族をサポートしています。治療方針においてもその子の意思や希望が尊重され、どんな時もその子らしく、ご家族との時間を大切に過ごせるよう、環境づくりや心理社会的支援を行います。



子どもに優しい環境づくり

子どもたちにとって、「怖くない」「楽しい」環境づくりを多職種と協働して工夫しています。

